

平成30年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

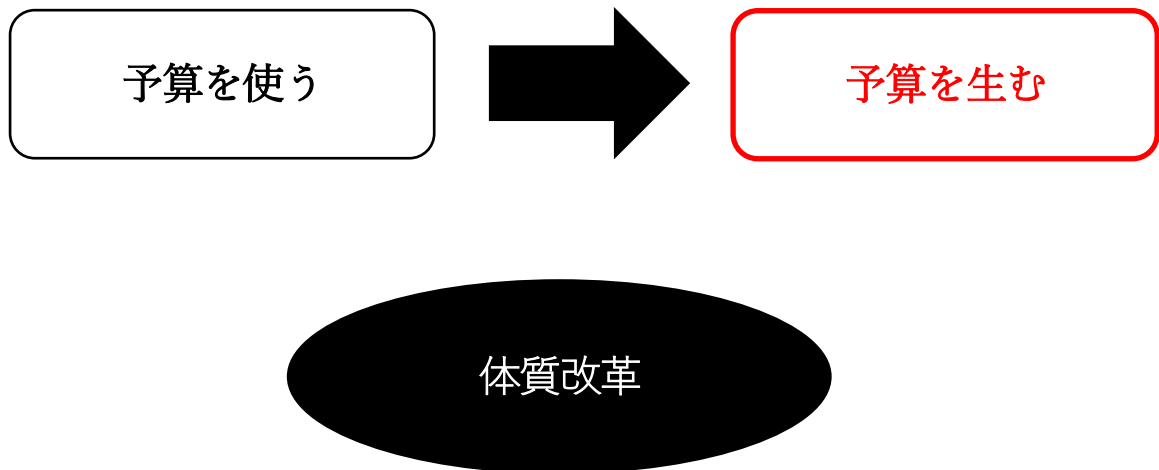
世界でメダルを取る アジアの盟主となる

基本的な運営方針

1. 背景

男子は 1988 年ソウルオリンピック、女子は 1976 年モントリオール以来 オリンピック出場を果たしていない。2016 年リオデジャネイロオリンピックの出場権も逃した。

2019 熊本女子世界選手権・2020 年東京オリンピックで男女ともメダルを目指すため、ハンドボール協会の抜本的改革を目指す。



2. 基本方針

- 1) 2019 女子世界選手権, 2020 オリンピックの強化
メダルにチャレンジ
- 2) 日本協会の改革 事業執行の透明化と確実な決済
- 3) 将来構想 2020 以降の自立運営レガシー確立
- 4) ガバナンス・コンプライアンスの強化
- 5) 社会貢献・国際貢献の実施

1. 競技力向上（強化）に関する事業

《強化》

【基本方針】

2019年女子世界選手権・2020年東京オリンピックに向け、世界基準のフィジカル強化・戦術の習得・技術の習得・メンタルの強化・人間力の強化などを図り、強化の恒久的なシステムの構築を推進する。また、システムを充実させるための強化スタッフの育成に努める。（国際レベルの指導者育成を図る。）

【実施計画】

<男子代表>

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A（4月）、欧州遠征B（8月）、欧州遠征C（10月）
- 3) 日韓定期戦（6月）※調整中
- 4) 国際強化試合（JAPAN-CUP ドイツ代表招待 6月13日徳島、16日東京）
- 5) アジア競技大会（8月18日～9月2日・インドネシア）

<女子代表>

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A（5月～6月）、欧州遠征B（7月）、欧州遠征C（9月）
- 3) 日韓定期戦（6月）※調整中
- 4) 国際強化試合（JAPAN-CUP ポーランド代表招待 6月20日～24日・群馬県高崎市）
- 5) アジア競技大会（8月18日～9月2日・インドネシア）
- 6) アジア選手権（12月・熊本）※未確定

<男子アンダーカテゴリー>

- 1) 強化合宿
- 2) U-22 東アジア選手権（7月2日～8日・香港）
- 3) ジュニアアジア選手権（7月8日～20日・未定）
- 4) ユースアジア選手権（7月28日～8月7日・未定）
- 5) 世界学生選手権（7月30日～8月5日・クロアチア）

<女子アンダーカテゴリー>

- 1) 強化合宿
- 2) U-22 東アジア選手権（7月2日～8日・香港）
- 3) ジュニア世界選手権（7月1日～15日・ハンガリー）
- 4) ユース世界選手権（8月3日～19日・ポーランド）
- 5) 世界学生選手権（7月30日～8月5日・クロアチア）

《強化委員会》

【基本方針】

世界基準及び国際的な競争力に関する情報を収集して、強化活動における様々な問題点を整理し、課題克服に関する施策展開（案）を立案し推進していく。

【実施計画】

- 1) 強化委員会（6回/年）
- 2) 強化ボードミーティング（4回/年）※JHL強化ボードメンバーとのミーティング
- 3) テクニカルレポート作成（指導委員会&情報科学専門委員会と協働・世界選手権後）

《強化部会》

【基本方針】

世界基準及び国際的な競争力に関する情報を収集して、アンダー代表強化活動におけるチーム間での情報共有を図るとともに統一性を持った指導体制の構築を図る。

【実施計画】

- 1) 強化部会（2回/年）
- 2) 強化現場視察（4回/年）※フル代表・アンダー代表
- 3) 世界の現場視察（1回/年）※男子…世界選手権、女子…アジア選手権）

《情報科学専門委員会》

【基本方針】

〈分析サポートについて〉

- 1) ナショナルチームが活用するための情報（日本ナショナルチーム及び各国の分析）を提供する。
- 2) ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価（人的および活動の方向性）の材料とする
- 3) 調査研究（特殊分析）を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上及び強化指針の作成に活用する。

【実施計画】

- 1) 国際情報収集
強豪国、対戦国等に関する情報収集・管理を行う。
⇒国際大会の視察、インターネットによる情報収集（各大会）
- 2) ゲーム分析&スカウティング
ゲーム分析&スカウティングのノウハウ共有（監督・コーチ・選手、全カテゴリー）を図る。
⇒全カテゴリースタッフとの情報交換会（1回/年）
- 3) ツールの開発
情報分析に関する最新テクノロジーの開発を図る。

⇒現在すでに運用、JISS、大学指導者（研究者含む）とのさらなる連携

4) データベースの活用と質的向上

JISS nx の活用と質的向上を図る。

⇒全カテゴリーへの普及・活用（1回／年）

5) 他競技における球技系サポート

他競技におけるゲーム分析システム、スカウティングやツールの活用方法を調査する。

⇒現在すでに運用、JISS、大学指導者（研究者含む）とのさらなる連携

《体力科学専門委員会》

【基本方針】

国内外選手の体格・体力の情報を収集し分析することで、世界水準のフィジカル・ストレングスレベルを可能とする強化システム構築をサポートする。

また、関連委員会との連携のもと、国内若手選手の体格・体力測定を連続的に実施することで、発達過程の把握、体力基準作成、さらに傷害予防システムに寄与するデータ作成と提供を推進する。

【実施計画】

- 1) NTS ブロックトレーニング 体力測定の実施と集計（8月）
- 2) JRSP 地方ブロック測定（2nd ステージ）の実施と集計（9月～11月）
- 3) NTS ブロックトレーニング体力測定 結果検討会議および内容策定会議（10月）
- 4) JRSP 拠点県合宿（3rd ステージ）体力測定およびトレーニング実施（12月、1月）
- 5) NTS ブロックトレーニング体力測定 次年度実施内容および評価基準決定（2月）
- 6) JRSP（2nd・3rd ステージ）結果検討会議および内容策定会議、次年度実施内容および評価基準決定（3月）
- 7) 代表チーム・各カテゴリー代表チーム・N アカデミー体力測定（時期未定；強化スタッフと連携し適宜実施）

《医事専門委員会》

【基本方針】

各関係部署と連携して下記の内容を円滑に話し合い実施する

【実施計画】

1) アンチ・ドーピング活動

- ・JADAと協議しドーピング検査（競技会検査）を計画する
- ・競技会検査にNFRの派遣を行う
- ・アンチ・ドーピング啓発活動を行う
 - # 各カテゴリー代表選手にe-learning(ALPHA)の実施を依頼する。
 - # 各カテゴリー代表合宿時に講習を行う
 - # 全国大会規模の大会でアンチ・ドーピング啓発活動ブースを設置しハンドボール

関係者に対し意識向上を促す。

2) 医師の派遣

- ・各カテゴリー代表チームの海外派遣時の帯同及び事前合宿でのメディカルチェック活動を行う。
- ・国内大会（要請時、必要時）にマッチドクターの派遣を行う。

3) メディカルチェック事業

- ・おりひめジャパンフィジカルクリニックを実施する。
- ・各カテゴリー代表チームでのメディカルチェック活動を行う。
- ・栄養部門にて食育活動を行う。
- ・歯科部門にて健診およびマウスピースの作成を行う。

4) 安全管理

- ・ホームページにハンドボールに関連する傷害／外傷のコンテンツを充実させる。
- ・全国ブロックに医事およびアンチ／ドーピング関連の部署／責任者を設置／任命を依頼して組織の改編を行う

《トレーナー部会》

【基本方針】

- 1) トレーナーの技術/知識向上のための研修・育成システムの立案
- 2) ハンドボール強化活動への積極的貢献
- 3) ドクター群との連携による各種支援プログラムの立案

【実施計画】

1) トレーナースタッフ育成

- (ア) 部会登録メンバーへの研修制度の立案（5月）
- (イ) トレーナー部会総会をドクター部会と連携し拡大会議とする（6月）
- (ウ) 男女トップカテゴリーでの若手トレーナーの育成（年間）

2) 強化活動への貢献

- (ア) 日本体育協会 AT 講習への継続派遣（4月）
- (イ) 各カテゴリー・NTS・アカデミーなどの強化・育成事業への派遣（年間）
- (ウ) ジュニア層に向けた基本的動作スキルプログラム「BASIC7」の普及・発展（年間）
- (エ) おりひめフィジカルクリニックの継続実施（5～6月）
- (オ) 全日本大学インカレへのトレーナーブースの設置（11月）

3) 各種支援プログラムの立案

- (ア) ドクター部会との連携によるメディカルスタッフ総会の開催（6月）
- (イ) 医事委員会傷害予防プログラムの構築支援（年度内）
- (ウ) コンデイショニングアプリ ONETAP の拡大利用（随時）
- (エ)

2. 指導普及に関する事業

《指導部》

《指導委員会》

【基本方針】

日体協の指導者制度改定（平成 31 年度予定）と連動して、ハンドボール協会としての指導者養成システムの構築を目指す。そのために、国内外からの情報収集を積極的に行い、分析した知見や講習会の内容を蓄積していく。

- ①その内容を精査して指導者講習会に活用していくとともに、公認コーチ養成講習会におけるカリキュラム及び講義内容の精査を行う。
- ②各都道府県およびブロックにおける指導者養成の意識を高め、指導者講習会が計画的に実施されるよう促すとともに、連絡網を整備し、組織強化を狙う。
- ③指導者が身につけておくべき知識をまとめたハンドボール指導教本の作成を最重要課題とする。

【実施計画】

- 1) 日体協公認上級コーチ養成講習会〔日体協委託事業〕（6月）
- 2) コーチレフェリーシンポジウム（12月）
- 3) 指導委員会中央会議（12月）
- 4) 指導海外派遣事業（1月）
- 5) 日体協公認指導者資格<免除適応コース>検定試験（2月）
- 6) 競技別指導者養成講習会〔日体協委託事業〕（2月）
- 7) トップコーチセミナー（2月）
- 8) 指導委員会全国研修会（2月）
- 9) 指導教本プロジェクト（5、12、2月）

《育成部》

《育成委員会》

【基本方針】

小・中学生におけるハンドボール環境をより一層充実させるために、一貫指導システム等の更なる拡充・発展を目指すとともに、2020年以降の日本ハンドボール界を見据えた選手育成方策について、具体的な事業展開を施行していく。

【実施計画】

- 1) 小学生専門委員会（5、10、2月）
- 2) 一貫指導伝達講習会（8月）
- 3) 全国U-12指導者研修会（10月）
- 4) 日韓小学生親善交流事業（8月）
- 5) ブロック普及指導者養成講習会〔大崎財団助成事業〕（9回/年）
- 6) ブロック小学生大会助成事業（9ブロック）

7) 中学生専門委員会 (8、12、3月)

8) J級指導者資格養成事業 (年間)

《普及部》

《普及委員会》

【基本方針】

東京オリンピック以降のハンドボール文化構築を見据えたハンドボール普及活動に取り組む。

- ①学校授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組む。
- ②ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備する。
- ③日本代表レベル選手のキャリア育成の仕方について現状課題を把握するとともに、女子チーム指導者が女性アスリートの心身の特性について理解を深める。
- ④ビーチハンドボールおよび車椅子ハンドボールの組織強化・拡充および普及発展の具体的方策を探る。

【実施計画】

- 1) ハンドボール研究集会 (学校体育、8月)
- 2) ハンドボール授業実践研修会 (学校体育、2月)
- 3) 授業実践校研究委託 (学校体育、6校)
- 4) 学校体育専門委員会 (学校体育、4月、8月、12月)
- 5) マスターズ専門委員会 (マスターズ、4月、3月)
- 6) キャリアサポート事業 (キャリアサポート、8月)
- 7) ビーチ専門委員会 (ビーチ、8月)

《発掘部》

《発掘委員会》

【基本方針】

JRSP において、2024・2028 に活躍が期待される将来性豊かなタレントを発掘育成すること、ならびに NTID において、形態的に優れた即戦力タレント候補を発掘することをねらいとし、育成委員会、各都道府県協会と連携を図りながら発掘したタレント候補生の育成環境の整備を進める。

【実施計画】

- 1) JRSP 第2ステージ測定会 (JRSP、7～9月)
- 2) JRSP 第3ステージ合宿 (JRSP、11月)
- 3) JRSP 拠点県合宿 (JRSP、12月、1月)
- 4) NTID トライアウト (NTID、11月)
- 5) JRSP・NTID 合同会議 (年間)

≪NTS 委員会≫

【基本方針】

＜選手の早期発掘・早期育成＞＜優秀指導者養成＞＜一貫指導システム＞を柱として、将来に渡るハンドボール選手の個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育と人間力を育成するとともに、優秀指導者の指導力研鑽を同時に行う。

【実施計画】

- 1) NTS 運営委員会 (4月、11月)
- 2) NTS ブロックシミュレーション (5月、11月)
- 3) NTS ブロックトレーニング [ブロック委託事業] (8月～9月)
- 4) NTS 検討委員会 (8月)
- 5) NTS 内容策定委員会 (4、10、2月)
- 6) NTS センタートレーニング (1月)
- 7) NTS 関連 (年間)

≪アカデミー委員会≫

【基本方針】

NTSによって選抜された優秀な選手を対象に、専門的で高度な個人技能・能力の育成を図る。日本はもとより海外においても活躍できるような国際感覚や教養を身につける。加えて、NTS 選考選手以外から特化プログラム（長身選手、左利き、GKなど）を組み、特殊な能力・ポジションを有する人材の発掘育成も実施する。

【実施計画】

- 1) ナショナルトレーニングアカデミー (4、6、9、12月)
- 2) ナショナルトレーニングアカデミー＜特化プログラム＞ (2月)
- 3) ナショナルトレーニングアカデミー＜海外遠征＞ (8月) ※予定
- 4) U-16 育成合宿 (9、10月)
- 5) U-16 日韓交流事業 (派遣：9月、受入：10月、期間・場所は調整中)
- 6) 大会視察等 (年間)

≪キャラバン委員会≫

【基本方針】

選手・指導者の中央への招集に留まらず、地方へ指導者を派遣することによって、多くの指導者並びに保護者に対して、技術や体力・栄養に関する最新知識を伝達する。

【実施計画】

- 1) ナショナルトレーニングキャラバン (9、11、2月)

《ライジング委員会》

【基本方針】

ジャパン・ライジング・スタープロジェクト(JRSP)において、2024・2028 に活躍が期待される将来性豊かなタレントを発掘育成すること、ならびに National Talent Identification and Development(NTID)トライアウトにおいて、形態的に優れた即戦力タレント候補を発掘することをねらいとし、育成委員会、各都道府県協会と連携を図りながら発掘したタレント候補生の育成環境の整備を進める。

【実施計画】

- 1) 全国各ブロックで開催される第2ステージ測定会（7～9月）における参加者の評価および測定会運営補助。
- 2) 第3ステージ合宿（11月～）において選考したタレント候補生の検証および合宿の企画運営。
- 3) タレント候補生が居住する都道府県協会と連携し、育成環境のヒアリングを行う。
- 4) 全国各ブロックにタレント候補生の受け入れ協力校を募り、発掘→育成のパスウェイを築く試みを行う。
- 5) JSC 主催の NTID トライアウトにおける参加者の評価。
- 6) NTID に関するワーキンググループに参加し、最新のタレント発掘事業の動向や他競技のタレント発掘に関する知見を収集する。
- 7) タレント候補生の検証方法について検討する。
- 8) タレント候補生が居住する都道府県協会と連携し、育成環境のヒアリングを行う。

3. 競技運営に関する事業

【基本方針】

- 1) 各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための基準づくり
- 2) 競技役員の資質向上
- 3) すべての選手・役員登録推進と登録システムの利用の推進
- 4) 熊本女子世界選手権並びに東京オリンピックに向けた競技役員養成

【目標達成のための具体的な行動】

- 1) 大会招致・大会運営・大会競技実施など各種マニュアルの作成
※ JHA オフィシャル・TD の任務の見直しも含む
- 2) 国際大会レベルの競技役員養成講習会の実施
- 3) 登録推進のための登録規程の見直しと登録啓蒙活動の実施
- 4) 事業部、総務部、審判部など各部との連携会議の実施

【実行計画】

- 1) 大会招致・大会運営・大会競技実施など各種マニュアルの作成
 - ① 6月末までに資料収集（大会の視察含む）
 - ② 10月末までに作成会議2回を実施し素案の作成

- ③ 以降常務理事会、理事会への提案、修正を経て12月完成
- 2) 国際大会レベルの競技役員養成講習会の実施
 - ① 各種大会の視察及び大会時での講習会の実施また直接指導の実施 (3回)
 - ② 熊本でのアジア女子選手権にて実践トレーニング
- 3) 登録推進のための登録規程の見直しと登録啓蒙活動の実施
 - ① 登録委員会、競技運営連絡協議会の開催と協議 (3回)
 - ② 登録システム、登録カテゴリーの見直しの協議
 - ③ 常務理事会・理事会への提案、承認
 - ④ 平成31年度登録に向けての「登録マニュアル」の作成配布 (3月)
- 4) 事業部、総務部、審判部など各部との連携会議の実施
 - ① スケジュール委員会の開催 (年2回、3月と10月)
 - ② 強化、事業スケジュールに沿った平成31年度計画案の策定 (11月)
- 5) その他の検討事項
 - ① 検定業者懇談会 (3月)
 - ② 日本選手権の日程見直し
 - ③ 日本協会主催大会での競技運営関係役員派遣の基準見直し
 - ④ 全国クラブ選手権の実施方法の見直し (31年度実施に向けて)

4. 審判に関する事業

【基本方針】

- 1) 組織の改編・改善と指導体系の強化
- 2) レフェリーの発掘と効果的な育成 (ビーチ競技を含む)
- 3) 競技規則と適切な競技運営の徹底
- 4) 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
- 5) 2019年・2020年、更にその後を見据えたレフェリーの育成

5. 強化・育成・競技・審判に関する事業

《強化・育成戦略委員会》

【基本方針】

強化・指導普及・発掘育成・審判等からの情報を共有し、日本ハンドボールのレベルアップを図るための強化・育成の指針を提示する。

【実施計画】

- 1) 強化・育成戦略委員会は、日本ハンドボールのレベルアップを図るために、これからの強化・育成に関する情報や方向性を共有し、強化・育成の指針を提示することを目的とする。
- 2) 本会議の構成員を、議長 (専務理事)、統括、強化本部長 (強化担当)、指導普及本部長 (育成担当)、強化委員長、情報科学委員長、体力科学委員長、JOC 専任コーチ、NTS 委員長、アカデミー委員長、キャラバン委員長、指導委員長、普及委員長、育成委員長、発掘委員

長、競技本部長、審判部長とし、必要に応じてアドバイザーや実務担当者を招聘する。

- 3) 本会議に作業部会を設置する。現在は、すでに進行している「テクニカルチーム」「日程調整ワーキンググループ」があり、必要に応じて追加編成する。
- 4) 平成30年度提案の強化・育成指針の進捗状況（達成度）をチェックする。
- 5) 四半期ごと（6月、9月、12月、3月）にチェック、および進度に応じた修正を行う
- 6) 具体的な実施内容は以下の通りとする。
 - (ア)強化：各カテゴリーの国際大会の評価（stats分析と戦い方）と強化指針との整合性をチェックする。
 - (イ)指導・普及・育成：各カテゴリーの国際大会の評価（技術・戦術の質的分析）と育成指針との整合性をチェックする。また、国内での指導指針の実施度をチェックする。
 - (ウ)NTS：指導内容策定とその実施度をチェックする。
 - (エ)アカデミー：指導内容策定とその実施度をチェックする。
 - (オ)キャラバン：指導内容策定とその実施度をチェックする。
 - (カ)ライジング：指導内容策定とその実施度をチェックする。
 - (キ)競技：国内大会の日程調整や大会開催、用具等に関するチェックを行う。
 - (ク)審判：指導指針に即した審判評価を行う。
- 7) 平成31年度に向けた強化・育成指針の検討と作成を行う。

6. 国際に関する事業

【基本方針】

- 1) IHF、AHF、EAHFとの連携及び関係強化による国際貢献及び国際力向上
- 2) 各国NFとの連携及び関係強化による強化環境・指導普及環境の強化
- 3) 2019年、2020年へ向けた国際渉外関連事項の強化
- 4) 国際的手続き等のルーティーンの停滞なき実施及び環境強化
- 5) 組織基盤強化

7. 事業企画に関する事業

【基本方針】

- 1) 2019年、2020年に向け、強化活動に沿った事業（国内開催の国際試合等）を展開する。

【実行計画】

- 1) ジャパンカップ・女子アジア選手権大会の開催

8. 総務に関する事業

【基本方針】

- 1) 改革から変革に繋げるべく、組織の活性化を推進する。
- 2) 各諸規定、規則の見直しを行い、ガバナンス・コンプライアンス体制の充実を目指す。
- 3) 適正且つ円滑な事業執行と事業進捗を図るとともに業務の効率化に努める。

【実行計画】

- 1) 総務委員会の開催によるタイムリーな情報の共有化
- 2) 就業規則の充実化とコンプライアンス規程の制定
- 3) 円滑な業務遂行のために必要な業務の洗い出しによる多能工と平準化

9. 財務に関する事業

【基本方針】

- 1) 2019年、2020年に向け、諸事業の充実を図るためには費用確保
- 2) 諸事業の円滑な推進のため、協賛活動および支援活動による収益確保と各種補助金助成金の有効活用で収入確保を目指す。
- 3) 同時に事業内容をもう一度見直し、効率良い事業運営がなされているかどうかを確認しながら推進していく
- 4) 更に2019年女子世界選手権開催の財源確保にも取り組んでいく。

【実行計画】

- 1) 財務委員会の開催によるタイムリーな情報の共有化
- 2) 世界選手権、オリンピックに向けた財源確保のためにPJTチーム設立の検討

10. ガバナンス・コンプライアンスの強化

【基本方針】

- 1) 法令はもちろん社会規範・倫理を含むコンプライアンスに基づいた行動を実践すること
- 2) 倫理・コンプライアンスをより高いレベルの倫理観に従って行動し、誠実かつ公平・公正な行動を実践することと捉え、一人ひとりが実践すること。

【実行計画】

- 1) コンプライアンス規程の実効化
- 2) コンプライアンス委員会の活性化
- 3) 内部通報窓口の設置
- 4) 各種規程の整備

11. 広報に関する事業

《広報事業》

【基本方針】

- 1) 2019、2020年を念頭にマスコミと接点、情報発信を増やす。
- 2) 試合への集客、注目度アップに繋がる発信型の広報体制を整備する。
- 3) 代表活動、主要試合、海外情報などHPコンテンツの充実を図る。
- 4) マーケティング活動の基礎となるハンドボールの付加価値を上げる。

【実行計画】

- 1) 広報マーケティングタスクチームによる戦略策定と、その推進

- 2) 情報収集の速報性、詳報性を高めるためのシステム作り
- 3) 「ハンドボール・サロン」の開催(1回/月)
- 4) 代表選手への広報対応研修

≪機関誌編集委員会≫

【基本方針】

- 1) 新規読者の開拓と、購読者の満足度向上を並立させる編集を進める。
- 2) PDFでの読みやすさや、見やすさを意識した誌面を作る
- 3) 読者の意見をフィードバックできるシステムを検討する。

【実行計画】

- 1) 機関誌編集会議の開催(1回/月)
- 2) 協会HPへのアクセス実態調査と、機関誌読者調査の実施

≪インターネット事業委員会≫

【基本方針】

- 1) 主要試合情報の速報性、詳報性を高めるなどに因り、注目率を向上させる。
- 2) 過去の主要試合情報のアーカイブ化を進める。
- 3) メールマガジン配信、EDM事業のための読者リスト整備をスタートさせる。

【実行計画】

- 1) 協会HPへのアクセス実態調査と、視聴者満足度調査
- 2) インターネット事業専門家の知見のヒアリング。
- 3) システム整備のための、経費(人件費を含む)計画の策定

12. マーケティングに関する事業

≪マーケティング事業≫

【基本方針】

- 1) 新規協賛企業獲得のため、ハンドボールへの注目度を高める。
- 2) 2020年以降を意識し、既存協賛企業の満足度を向上させる。
- 3) ユニフォームや看板広告の飽和状態を見据え、協賛金額を向上させる。
- 4) ユニフォームや看板広告に頼らないマーケティング手法を開発する。
- 5) 2019女子世界選手権のマーケティングに関し、IHF、組織委員会と協調する。

【実行計画】

- 1) 広報マーケティングタスクチームによる戦略策定と、その推進
- 2) 新規協賛企業の開拓
 - ・オフィシャルスポンサーの開拓 = +2
 - ・オフィシャルサプライヤーの開拓 = +1
- 3) 既存協賛企業の契約の改善

- ・既存協賛企業の契約内容の見直しと、契約書の整備
- 4) 個別国内大会の協賛企業獲得
 - ・既存・新規大会開催を冠大会として開催 = +1
- 5) 都道府県連盟のマーケティング活動との情報共有
 - ・早期からの情報共有と、マーケティング活動開始
 - ・協賛金額のバラツキの防止
 - ・契約書整備の指導
- 6) ライセンス・グッズ開発
- 7) 代表選手の肖像権確保
 - ・肖像権規程の整備
- 8) 広告会社、マスコミ、IT 情報企業などとの情報交換
- 9) 2019 女子世界選手権組織委員会との綿密な情報共有
- 10) 代表選手へのマーケティング対応研修

13. アスリート支援に関する事業

【基本方針】

- 1) 委員会始動。新委員会としての機能を明確にしなが、JOC や他 NF の連携体制を整える。
- 2) 組織基盤強化
- 3) 課題の検討

14. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

- 1) “強い日本ハンドボール”を目指す。
 - ①2019 年女子熊本世界選手権を意識し、代表活動を支援する
 - ②2020 年オリンピックまであと 2 シーズンであることを意識し、代表活動を支援する
- 2) 広報の充実ならびに各チームの集客戦略の確実な実行により、ご来場者数を増やし、スポーツ界における“ハンドボールリーグ”の存在感の上昇を目指す
- 3) リーグを法人化することで、リーグの価値を高め、リーグの発展を目指す。

【実施計画】

- 1) SNS 利用を強力に実践する。
- 2) 会とリーグ事務局、代表チームとリーグ各チームとの連携を密にし、女子熊本世界選手権ならびにオリンピックにて「強い日本」を目指す。
- 3) GM 会ならびにリーグ委員会それぞれの機能・役割を充実させ、リーグの規律向上を図る
- 4) リーグの所属チーム増を図るとともに、リーグの制度・体制の見直しについて、適切な対応をとる。
- 5) リーグ法人化のスケジュールを作成し具体的に実施する。とくに、J リーグ・B リーグと異なる

るハンドボールリーグオリジナルの「企業チームとクラブチームの併存のあり方」を見出す。

15. 2019 女子世界選手権プロジェクト

【基本方針】

熊本女子世界選手権で新しい日本をアジア、世界に発信

大会キャッチフレーズ 「ハンド イン ハンド 1つのボールが地球を結ぶ」

「基本理念」 ①誰もが楽しめる大会 ②女性が活躍する大会 ③環境に配慮した大会

④日本(熊本)らしい大会

【実施計画】

- 1) 熊本女子世界選手権の PR を全国展開
- 2) マーケティング・チケット販売の展開
- 3) プレ大会開催 (熊本会場にて)
 - 7月 アジア競技大会 壮行試合
 - 12月 アジア選手権
- 4) 大会実施計画策定専門委員会 設置
※熊本組織委員会 JHA 合同

16. 日本選手権大会に関する事業

【基本方針】

- 1) 従来、地方協会へ全面委託していた大会運営を、日本協会を主体とした実行委員会方式で開催することにより、2019 年、2020 年に向けて大会運営ノウハウの確立と体制構築を図る。
- 2) 開催地の決定と日程、組み合わせ方法 (大会実施方法) の見直しを検討する。
- 3) 平成29年度開催の反省点を含めて検討する。

以上